

4. 候補者の絞込み(最終候補者)

- ・第2次候補者に対して10分間程度の電話インタビューを行い、対象者の「遊びの活発さ」を確認し、遊びについての面接ができる対象者を注意深く絞り込んだ。
- ・高校生の場合、対象者の友人として紹介された人に対しても直接10分間の電話インタビューを実施し、「遊びの程度」を確認した。

5. 候補者の最終確認

- ・最終候補者が集団深層面接調査に参加できる社会性や協調性を有しているか電話にて再確認する。

【調査方法】

フォーカス・グループ・インタビュー（以下FGI）の手法を用いた。

FGIの目的および特徴：FGIは仮説探索・抽出に重点をおいており、質問紙調査のように仮説検証を主目的としていない。よって、対象者が日常から引き離される状況——アンケート用紙に書き込んだり、一人で大学構内でインタビューを受けたりといった、日常的ではない行為をする等——を極力排したアプローチがなされ、「友人同士の雑談」の場のようなものが設定される。参加者の「雑談」を、モデレーター（司会）が半構造化された枠組みにそって導いてゆく。この参加者同士やモデレーターとの会話＝相互行為の内容から、生の声、現場の声、即ち現実の関心や問題などを探索・抽出することが、FGIの目的である。調査方法および目的の特徴上、サンプル数は少なく厳密なランダム性は低い。

①FGIの方法：通常、調査目的に即して似かよった背景を持つ7-8人ほどを対象にインタビューを行う（原則的には、お互い面識のない人で、今後も会う可能性のない人）。インタビュー所要時間は2時間。インタビューはカセットテープ、速記者および記録者（非言語的状況・全体の状況の記録）によって記録される。

【データの解析方法】データ解析は以下の方法で行った。

- ①基本的考えを確認する。
 - ・FGIの直後に、調査者は、非言語的表現や参加者の反応強度を考慮し、FGIからの結果を代表する基本的な考えを印象あるいは仮説として確認する。
- ②データを単位化する。
 - ・2時間の速記録を、話題別に分け、カテゴリを定義する際の情報の根拠となるような情報の単位を確認する。
- ③情報単位をカテゴリ化する。
 - ・内容を同じくする情報単位を1つにまとめ、データの単位群に組織化されたテーマを与える。
- ④カテゴリを取り決める。
 - ・①から③までの段階を複数の調査者によって行い（質的調査の解析には解析者の主観が入る可能性が高いため）、各調査者のカテゴリを比較し、カテゴリを決める。
- ⑤調査の最終主題を導き出す。
 - ・第1段階①で得られた基本的考えと比較検討し、調査の最終主題を導き出す。

結果

(1)「遊び」の特徴

★対象となった女子高校生の間では外泊はかなり普通に行われている。

- ・高2とかは、居酒屋とかイベントにいて泊まったり。泊まってばっかであんまり（高3A）
- ・そう、すごい泊まってばっかだよ（高2AK）
- ・高2の頃は、親に言えないから友達んちに行くって納得させる（男の子と泊まるのを）（高3Y）
- ・（彼氏を）連れてくるのも全然OKで、うちに泊りにも来た（高2R）
- ・（4日間ぐらい帰らないのは）けっこう普通。（高2R）
- ・転々とするの。友達の家とか（高2R）
- ・クラブが朝5時までだから、あとはマックで時間つぶせる（高2AK）
- ・女子高は合コンが多い。合コンに行ったら必ずオールにいて朝帰ってきて（高1M）

★帰宅時間もかなり遅い。

- ・コアはもういい。朝辛い。（高2AK）
- ・イベントは夜中のもあるし、無料では入れるのは12時前に終わるやつ。チケット買うのは朝までだけど（高3A）

★「クラブ」は社交場の一つである。

- ・私クラブで踊っています。（高2AK）
- ・今は高3で受験勉強なので、自分で制御して、クラブのイベントに行くのを減らしている（高3A）
- ・以前は、コアでいっぱいパーティーがあって友達とよく行ってた（高3Y）
- ・クラブとかでナンパする人いるでしょ（高2R）
- ・夏はクラブとかバーに行ってた（専門K）
- ・夏休みには渋谷のクラブに行きました。特によく行くクラブはないです（専門A）

★高校時代の遊びはカラオケであった。

- ・高校の時は（カラオケに）すごく行ってたけど、大学になっていかなかった。（大学S）
- ・カラオケも行かなくなっちゃった（大学R）
- ・高校時代は地元でカラオケとかお酒飲んでたけど・・・（専門A）
- ・年下の友達と遊ぶ時はカラオケもある（専門M）

★遊びのピークは高1、高2。年齢上昇に伴い落ち着きを見せる。

- ・高2までは、友達と飲みに行ったりイベントばかりだったけど、高3になったら受験勉強が忙しくて遊びは友達と単語を出し合ったり…（高3Y）
- ・高校までは、夜遅くまで飲んだりカラオケに行ったりしてたけど、大学にはいったら飲んでも12時になると電車のあるうちに帰ろうって感じ（大学S）
- ・今は海外旅行に興味があるので遊ばなくなった（大学R）
- ・明日学校があると、一応理性が働いて遊びたなくなる（専門K）
- ・そうなんだよ。高1がピークなんだよ。（高2AK）

- ・私今年の5月からほんとピーク（高2R）
- ・昔は家に帰らなかった。4日間ぐらい（高2AK）

(2) 性行動について

●女子高校生の場合

★その場限りの関係が多い

- ・自分が好きじゃなくても受け入れてしまうんですよ（高3Y）
- ・ナンパされてその場ののりでやっちゃう（高2R）
- ・（意識があってそういう関係になるのは）それは昔あった（高3A）
- ・（意識があってそういう関係になるのは）昔はあった。高1とか（高3AN）

★飲酒によりその傾向がさらに強化される

- ・お酒はいっちゃんとまずい、どうでもよくなる（高2R）
- ・強いのを飲んじゃって意識がなくて、起きたら一人ぐらしの男の部屋にいた（高3A）
- ・1回しかやってないけど、ギョロ酔いしちゃって、気づいたらやつの家。（高2AK）

★遊びの活発さのピークは高1-高2で、高3以降では少し落ち着く

- ・そうなんだよ。高1がピークなんだよ。（高2AK）
- ・私今年の5月からほんとピーク（高2R）
- ・昔は家に帰らなかった。4日間ぐらい（高2AK）
- ・（意識があってそういう関係になるのは）それは昔あった（高3A）
- ・（意識があってそういう関係になるのは）昔はあった。高1とか（高3AN）

●18-19歳女性の場合

★高校時代は、その場限りのセックスの経験もあった

- ・かっこいい人がいたらころっといっちゃんこともあった（専門M）
- ・いないときは、そういうこともあった（大学S）
- ・もうそれはない（以前はあった）（フリーターJ）
- ・最近ナンパについていけない（以前はあった）（専門A）
- ・いまはつきあっている相手とだけ（フリーターJ）

★特定の相手がいる場合は、セックスの相手は彼氏だけである

- ・彼氏がいたらそれ以外はしない（専門A）
- ・セックスはちゃんとつきあう人としかない（大学T）
- ・わたしもうすぐ20だから好きな人じゃないとエッチをする意味がない（専門K）
- ・彼氏がいる場合は絶対に彼氏としかない（専門M）
- ・いまはつきあっている相手とだけ（フリーターJ）
- ・彼氏がいるときは彼氏だけ（大学S）

(3)コンドームの使用状況・意識・態度について

●女子高校生の場合

★コンドームを使わないならセックスをしないという意識を持つ。5/8

- ・持ってなかったら絶対しない (高2R)
- ・酔ったときは別として、記憶のあるときは病気とかやだし持ってなかったらやらない (高2R)
- ・絶対につけた方がいいと思う (高3A)
- ・つけない男は殺す (高3Y)
- ・持ってなかったら絶対嫌だ (高3A)
- ・だって痛いんだよ。子供できるときとか。あの恐怖は耐えられない (高2R)
- ・持ってなかったらやらないか、コンビニに買いに行く (高3A)
- ・(俺はつけないと言われたら) 嫌だからやらない (高3AN)
- ・なかったらやらない(高3T)

★予防意識が低く、相手に依存している人はコンドームを使わない。3/8

- ・私は絶対したいけど (時と場合によって使う) (高2A)
- ・そのときになると気が緩んで、まあいいかなと思って。(高1ME)
- ・言っても絶対してくれないから (高1M)

★相手まかせでなく、自分自身で能動的にコンドームを入手/所持している。

- ・女の子でも持ってるよね。(高2R/高1ME/高3A)
- ・原宿にコンドームの掴み取りがある (高2R)
- ・買い物するとくれるところもある (高2AK)
- ・ホテルのフロントで買えるし (高3Y)
- ・ホテルに置いてるよね (高2R)

●18-19歳女性の場合

★使うかどうかは、本人もしくは身近に妊娠・性病経験者がいるかどうかで異なる

- ・今まで妊娠したことないから安全かなと思って：いつも使わない (フリーターJ)
- ・自分もまわりの友達も妊娠したことないから (使わなくても) 大丈夫と思ってる (大学S)
- ・前はしない派だった。・・・今は妊娠した友達がいるから私はする (専門A)
- ・友達に病気になった子もいるし、妊娠した子もいる：絶対に使う (大学R)

★使うかどうかは、予防行動に対する主体性の有無による

- ・相手がゴムが嫌い (フリーターJ)
- ・相手が彼氏だからしなくていいといたから (専門M)
- ・あんまり興味がないから相手にまかせる (専門K)
- ・ほんとはして欲しい (専門K)
- ・相手によるかな。大丈夫だよと言われたらそれまで (専門K)
- ・相手がしたくないといたら私はぜんぜん言えない (大学S)
- ・しない人は好きにならない (大学R)

- ・相手をみる目安になる (大学R)
- ・ゴムをつけない人はそれで人間を測る。快樂におぼれなくて私のことを考えてくれるかどうか。(大学T)

★使うかどうかは、知識のレベルによる

- ・外で出せばいいかなと思って (フリーターJ)
- ・(根拠なく) 大丈夫かなと思う (専門K)
- ・10年間女子高で性病についての勉強をした。つけないとよくない (大学T)

(4)エイズ・性感染症について

●女子高校生の場合

★エイズについては関心が薄いためか、話題が発展しなかった。

- ・エイズは怖い (高3Y)
- ・エイズは死ぬし、うつすから怖い (高3A)

★性感染症の罹患経験を持った生徒に、質問が集中し、性感染症に対する早急な情報提供の必要性が示唆された。

- ・痒くなったりしたことあるけど、それって普通にあるよね (高2R)
- ・それって放っておいたら治る？それやばい。(高3Y)
- ・クラブの支配人みたいな人とやっちゃって・・・毛じらみになった (高3Y)
- ・超やばい。疑いつつあったけど。私ほんとに行くわ。病院って痛くないの。保険証必要でしょう (高2R)
- ・1ヶ月くらいになるけどトイレに行くとおしっこするときに痛い (高2R)
- ・毛じらみじゃない。梅毒か淋病だよ。行ったほうがいいよ。(高3A)
- ・私も痒かったりするからすごく怖い。最近やったのはクラブの店員 (高2AK)
- ・ほんとに今の若者は(性病)多いと思う。クラブ方面は普通にやばい (高3Y)
- ・一緒に病院いこ (高2AK)
- ・うん (高2R)
- ・病院に行くのとどのくらいかかるんですか？(高1M)
- ・毛じらみの例は1500円とか (高3Y)
- ・妊娠の検査してもらうのはどのくらいかかるんですか？ (高1M)
- ・450円くらいで検査薬が買えるからそれでやったほうがいいよ。(高2R)

★性感染症を予防するには、相手を選ぶこととコンドームをつけることと考えている

- ・やっぱ男を選べってことだよ (高2R)
- ・信用できる相手とやること、病気について話し合える相手とやること (高3Y)
- ・毛じらみは毛の接触だから仕方ないけど、他のやつだったらゴムつければ大丈夫なんじゃないかな (高3Y)

★性感染症の知識は比較的あるが、不確実な知識もある。

- ・クラミジア、淋病、梅毒とか（知ってる）（高3Y）
- ・コンジロームもあるよねワンドフルでやってたましたよね。保体でもやったから（高3A）
- ・ワンドフルでも4人に1人は性病だってやってる（高3A）
- ・自分が病気があるって知っているのにやると罰金とられるんですよね。そういう法律があるの（高3Y）

★学校の保体の授業は性感染症経験者は真面目に聞いている。教える側の姿勢によって教育効果に影響する。テレビ・ビデオなど映像を通したものは印象に残りやすい。

- ・保体で習うときはちゃんと授業を聞くの（高3Y）
- ・プリントとってあるの。症状が出るのが何日で完治まで何日と超詳しいの。（高3A）
- ・保体ではあんまりやらないよね。そこまで詳しく（高2R）
- ・コンジロームもあるよねワンドフルでやってたましたよね。保体でもやったから（高3A）
- ・保体でやった。ビデオで見たじゃん（高3T）
- ・子供を産むビデオは見た（高3AN）
- ・私子供殺すビデオ見た（高2R）
- ・私も見たよ。中絶の（高3A）
- ・保体授業は覚えていない（高3AN）
- ・学校授業はお堅いみんな寝てた（高2R）
- ・もっと詳しく現実的に体験談とか入れてちゃんとやって欲しい（高3AN）
- ・後でプリントくれるからテストの時覚えればいいやと思った（高1M）
- ・先生が恥ずかしがって親身やってくれる人がいない（高3Y）
- ・高校生でもエッチは普通にあることを前提にしてちゃんと授業をして欲しい（高3A）

●18-19歳女性の場合

◆性教育について

★性教育の効果は、性教育に対する学校側の姿勢と、それを受ける生徒側の興味のレベルによって異なる

- ・学校でやった記憶ない（専門A）
- ・保健体育の授業で。教科書読んで線を引いておけと言われた。手紙を書いて遊んでいた（大学S）
- ・今だったら聞く（身近にできちゃった子がいるから）（大学S）
- ・高3、保健の授業で毎週1回ずつ。先生はおばちゃんて小さな声でしゃべるのでイライラした。みんな寝てた（専門M）
- ・女子高だから一応やったけど、若い先生で甘かったからみんな寝てた。プリントも無くした（専門K）
- ・専門学校で性病保健の講義で聞いた。今は真面目に聞いている（専門M）

★実演などを交えると効果的

- ・高校でエイズ講演会をやった。コンドームを配布したので、いつも寝てる子も真面目に聞いた（大学R）

- ・中学高校でやった。コンドーム使用の実演があって、男子はノリノリで聞いた女子は恥ずかしがっている子が多かった。でも実生活にかかわることなので一応読んだ（フリーターJ）

◆性感染症について

★性感染症の名前は、ある程度認知しているが、症状に関する知識は不確実である。

★コンドームをすることが予防になるとの知識はあるが、使う相手を不確かな自己判断で選んでいる。

★性病予防よりも妊娠予防を気にしている

◆名前の認知

- ・クラミジア、淋病あといっぱい（専門M）
- ・梅毒もある（大学T）
- ・疥癬（専門M）

◆症状について

- ・首の後ろがぼつぼつみたいのがいっぱいできて腐りだす。治療しても治らない。病院に行っても死ぬ。それは淋病。（専門M）
- ・梅毒はゴム状のしこりができる（大学T）
- ・へんなおりもの、におい（専門A）
- ・女の子は症状が出るのが遅い。男は早いらしい。腫れて歩けなくなるみたい（大学T）
- ・男は病気持ってもわからないのかな（大学R）

◆予防について

- ・ゴムをすること。不特定多数の人、知らない人とはしないは絶対だと思う（専門A）
- ・仕方がよくわからない（専門A）
- ・予防は完璧にはよくわからない（フリーターJ）
- ・コンドームが一番よぼうしやすいかと思うけどしてない（フリーターJ）
- ・安心感のある人とだったらゴムやらないでもする（フリーターJ）
- ・コンドームつけようとしらない人は病気をもっていそう。誰にでもそうだから（大学R）
- ・その場限りの人は絶対ゴムする。性病が移されるのが怖い（フリーターJ）
- ・病気うつされちゃったら嫌だけど、できちゃったらの方が心配（大学S）
- ・性病については意識も薄いし、知識もないのに、自分は大丈夫とってしまう（大学S）
- ・病気は身近じゃない、妊娠は理解しやすく頭の中にはいつてきたけど（大学T）
- ・クラミジアは耳に残らない。エイズは自分の身にふりかかりそうな問題じゃない（大学T）

◆エイズについて

★エイズに対する認知度は高いが、知識レベルは様々。情報提供の方法により、効果も変化する。

- ・エイズも性病の一種だと思っていた（大学T）
- ・性病の中にエイズがはいるのは初めて聞いた（専門A/専門K）
- ・（エイズのイメージは）死ぬ。（専門A/フリーターJ）
- ・免疫がなくなるから他の病気にかかる（大学T）
- ・学校の福祉の授業であった。すごい深く思った。大変なことだと（大学R）
- ・深田恭子のドラマで知った。びっくりした。エイズに関して聞くところの電話番号が流れて

良かった。(専門A)

- ・学校にポスターが貼ってあるけど、ああ、うん気をつけようと思って終わり(専門M)
- ・軽くやらないように気をつける(専門M)
- ・友達がエイズ検査はただだて言うからやりに行こうよって誘われているけど、まだいってない(専門M)
- ・1回性病になると(エイズに)なりやすいつて(大学T)
- ・性病になったら(エイズに)かかりやすいつて私も聞いた(フリーターJ)

結果のまとめ

本調査対象者に関して以下の知見が得られた。

1. “遊び”などの日常生活

- ・高校生群でも帰宅時間はかなり遅く、外泊が普通に行われ、飲酒の機会も多い。
- ・“遊び”の場としては、「クラブ」(注：踊れて飲酒できる店。学校のクラブ活動ではない)が彼女たちにとってイベント性のある社交場の一つである。18-19歳群ではカラオケは高校時代の遊び場であった。
- ・遊びの活発さのピークは高1-高2で、高3以降は受験勉強もあるため比較的落ち着きを見せる。

2. 性行動

- ・高校生群では、その場限りの性関係を持つ傾向が高く、飲酒によりその傾向が強化される。性行動(遊び)の活発さのピークは高1-高2で、彼女たち自身も自覚している。
- ・18-19歳群でも、高校時代には、その場限りの性経験もあるが、高校卒業後は落ち着く傾向を示し、特に、決まった相手(彼氏)がいる場合は、セックスの相手は決まった相手だけという意識を持つ。

3. コンドーム使用状況

- ・自己申告によるコンドームの使用状況には、以下の3つのパターンが見られた。
 - a群. 毎回使用 : 7/15 (高校生 5/8、18-19歳 2/7)
 - b群. 場合によって使用 : 6/15 (高校生 3/8、18-19歳 3/7)
 - c群. 全く使用しない : 2/15 (高校生 0/8、18-19歳 2/7)
- ・高校生群は、自己申告ではa群が多く、コンドームをつけない人とはセックスをしないという意識が強く、コンドームの入手/所持に対してもかなり能動的であるが、飲酒などの要因によりb群になる場合もあり、意識と行動が乖離している。
- ・コンドーム使用の3パターンの分岐要因としては、以下の3点が考えられる。
 - ①本人もしくは身近に妊娠・性病経験者がいるかどうか
 - ②予防行動に対する主体性の有無(本人は使いたい相手任せの姿勢)
 - ③性感染症および避妊に関する知識のレベル

4. STD/HIVに関する認識と予防意識

■STD 関連知識レベル

STDに関しては、名前はある程度認知しているが、知識内容は不確実である。

■ 予防意識

「知らない人/不特定多数の人とセックスしなければ感染しない」「彼氏とだけセックスしていれば感染しない（一人神話）」などの意識を持つものが少なからず存在した。

■ STD 関連情報の必要性

STD の罹患経験のある生徒に質問が集中したり、STD に関する具体的情報をもっと得たいという発言も見られ、STD に関する早急な情報提供の必要性が示唆された。

■ STD と妊娠

STD 罹患よりも妊娠を心配している。

■ 学校における予防教育の現状

学校における予防教育の効果は、単に内容だけでなく、教育をする側の意識・姿勢およびそれを受ける側の興味のレベルによって異なる。伝達方法としてはテレビやビデオによる映像の利用やコンドーム使用の実演などを交えると印象的に伝わる傾向が見られた。

■ エイズ

エイズに対する認知度は高いが、知識レベルにはばらつきが見られ、情報提供の方法により教育（キャンペーン）の効果に変化する。高校生群ではエイズはあまり関心が持たれていない。

(2) 首都圏 10 代カップルの日常生活・HIV/STD 関連知識、行動に関する量的調査

研究目的

首都圏に在住する 10 代女性とカップル構成する男性を対象に、彼らの日常生活・HIV/STD 関連知識・意識・行動の実態を捉え、彼らに対する予防介入方法の開発の基礎情報を得ることを目的とする。

方法

対象者：首都圏に在住する 10 代女性とカップルを構成する男性

サンプリング方法：非確率サンプリング法で Location sampling(Time-space sampling) 法を用いた。1 月 25 日-30 日、2 月 11 日合計 7 日間、平日 12:30-6:00、土日 10:30-5:00、渋谷、池袋の繁華街の 3 地点で街頭リクルートを行った。1 地点 3 人のリクルーターを配置した。

リクルート条件：

1. カップルであること
2. 女性が 10 代であること

調査会場付近を歩いているカップルにランダムに声をかけた。女性が 10 代であるかどうかを確認し、該当するカップルに調査への参加を依頼した。調査参加への承諾を得

たカップルに対し、リクルート地点付近の会議室で、質問紙調査を実施した。調査会場では、カップルに対し同じ番号でマッチングされた調査票を手渡す。

質問紙調査法：調査(1)の質的調査の結果を基に調査票を作成した。設問総数は 61 問で

無記名自記式調査を行った。

対象者の権利・秘密保持・プライバシーの保護：調査は無記名で、どうしても答えたくない場合は無理に答える必要がないこと。

また、調査の途中でやめたい場合には申し出て中断してもいいことを伝えた。記入に際しては、回答の内容が会場の調査員にも見られないように、また、他の記入者からも回答が見られないように(カップル同士でも)、投票所のような仕切りの中で回答する形式を用いた。記入の終わった調査票は参加者自身で、添付の封筒に入れ、封をして受付に提出した。その際、記入漏れなどの内容の確認は一切行わない。

参加謝礼：記入後、受け付けに封筒を提出した際に、謝礼として一人 1000 円の図書券を支払った。

結果

【回収率】(1 月 27-30、2 月 11 日)(1 月 25-26 日は未報告)

期間中に街頭で声をかけたカップル総数 2074 カップル、そのうちの 979 カップル(47.2%)が話に応じた。そのうち、年齢条件を満たしていたものが 569 (58.1%) カップルで、そのうち調査への参加を承諾したのが 243 カップル(年齢条件を満たしているもののうち 42.7%)であった。

【参加者の背景】

参加者総数は 602 人(男性 301 人、女性 301 人)、301 カップルであった。

別添表参照

1. 性・年齢別分布(表 1)

- ・女子：平均年齢 17.1±1.7 歳(13 歳-19 歳)
- ・男子：平均年齢 17.9±2.3 歳(13 歳-27 歳)

2. 学年・職業別分布(表2)

- ・男子で最も多かったのが高校2年生で19.9%、次が大学生で17.9%、3番目が高校1年生で15.3%であった。
- ・女子は最も多かったのが高校1年生18.6%で、次が高校2年生15.6%、3番目が大学生で15.0%であった。

3. 居住地別分布(表3)

- ・参加者の居住地は、最も多かったのが東京都内で60.0%、神奈川県が18.3%、埼玉県10.1%、千葉県5.8%、それ以外が5.6%であった。
- ・男女とも東京都内在住の参加者は6割程度とどまり、あとは神奈川、埼玉、千葉など近郊県から遊びに来ていた。

4. 同居家族構成(表4)

- ・同居家族は母親82.6%、父親73.8%で最も多く、一人暮らしは9.1%、彼氏・彼女と同棲中は2.3%であった。

【日常生活】

1. 遊び場所:よく(遊びに)行くところ(表5-1、表5-2)

- ・男女ともカラオケが最も多く(男63.5%、女72.8%)、次がファーストフード店(男54.5%、女66.8%)、3番目がコンビニ(男51.5%、女51.5%)で、男子ではゲームセンターも50.8%で50%を超えていた。
- ・調査(1)で比較的多かった“クラブ”はこの集団では、5.6%と低率であった。

2. 遊びの相手(表6)

- ・最も多かったのが彼氏や彼女で男子78.7%、女子81.4%であった。
(注:今回の対象者は全員カップルであるので結果の解釈には注意が必要)
- ・次が学校内の同性の友達で(男68.1%、女80.1%)、3番目が学校外の同性の

友達で(男43.5%、女44.9%)あった。

- ・これを年齢別に見ると、学校内の友達と遊ぶ人の割合は、年齢が上昇するに伴い減少するが、これとは逆に彼氏彼女と遊ぶ人の割合は、年齢の上昇と共に増加した

3. 帰宅時間

●平日の帰宅時間(表7)

- ・平日の帰宅時間で最も多かったのは、男子(15-17歳群)では夜10時-11時前(24.0%)、男子(18-19歳群)でも夜10時-夜11時前(22.2%)であった。女子(15-17歳群)では夜8時-9時前(29.5%)で男子に比べ比較的早いですが、女子(18-19歳群)では夜11時-12時前(25.2%)で男子よりも遅い時間帯となる。

●休日の帰宅時間(表8)

- ・休日の帰宅時間で最も多かったのは、男子(15-17歳群)では夜10時-11時前(18.6%)、男子(18-19歳群)では夜11時-夜12時前(21.9%)であり、平日より少し遅くなる。一方、女子(15-17歳群)では夜9時-10時前(28.0%)で、休日より約1時間遅くなる。また女子(18-19歳群)では夜11時-12時前(25.9%)で平日と変わらない。

4. 外泊場所(表9)

- ・最も多いのが友人宅で68.8%、次がカラオケボックスで33.8%、3番目が彼氏・彼女の家で29.8%、4番目がラブホテル26.2%の順であり、カラオケボックスは遊びの場ばかりでなく、一夜を過ごす場ともなっている。

5. 各種経験(表10-1、表10-2)

- ・「耳ピアス」は男子44.2%、女子61.5%、「髪染め」は男子80.1%、女子86.0%、「化粧」は女子の96.0%であった。また、「喫煙」は男子70.4%、女子49.2%、

「飲酒」は男子 84.1%、女子 82.1% (15-17 歳の高校生で男子 79.8%、女子 79.5%) でかなり一般化していた。「テレクラ」の利用者は、男子 4.0%、女子 16.3% と女子に高く、「援助交際」も女子では 6.3% であった。さらに、女子では「妊娠」6.0%、「中絶」5.0%、「出産」女子 1.0% の割合であった。

6. コミュニケーションツール (表 11)

- ・参加者のほとんどがメール機能付き携帯電話で(男子 92.0%、女子 89.7%) を所持しており、次に多かったのがパソコンで男子 43.2%、女子 40.2% であった。

【性行動】

1. 性交経験率 (表 12)

- ・本調査対象者 (東京の繁華街を歩いている 10 代のカップル) の 78.1% がセックスの経験を持っていた。
- ・性年齢別に見ると、セックスの経験者の割合は、男子 (12-14 歳群) 33.3% (3/9)、男子 (15-17 歳群) 70.5%、男子 (18 歳以上群) 86.7% であった。女子 (12-14 歳群) 34.6%、女子 (15-17 歳群) 73.5%、女子 (18-19 歳) 88.1% であった。
- ・これは、一般集団の全国性行動調査の 18-19 歳群のセックス経験率と比較すると、全国調査では男子 (18-19 歳群) 50.0%、女子 (18-19 歳群) 45.3% であるので、今回の対象者は、全国の平均値に比べかなり性交経験率が高かった。

2. 初交年齢 (表 13)

- ・セックス経験者のうち、初交年齢で最も多かったのは、男女とも 16 歳であったが (男 24.4%、女 24.1%)、最もセックスの開始が早かったのは、男子で 12 歳が 0.8% (2/238)、女子

で 13 歳が 4.7% (11/232) であった。

3. これまでのセックスの相手の数 (表 14)

- ・セックス経験者のうち、これまでの相手の数が 2 人以上だったものは男子 65.5%、女子 62.1% で、そのうち相手の数が 10 人以上の割合は、男子 15.5%、女子 9.1% と約 1 割程度存在した。
- ・18-19 歳のセックス経験者のうち、男子では、これまでの相手の数が 2 人以上だったものは男子 62.6%、女子 70.6% で、全体の約 6-7 割が複数の相手を持っており、女子の方がやや多かった。
- ・これを、全国性行動調査のセックス経験者の 18-19 歳群の結果と比較すると、全国調査では、これまでのセックス経験人数が 2 人以上だったものは、男子 (18-19 歳群) 75.0%、女子 (18-19 歳群) 70.8% と約 7 割程度で、今回の調査結果と同様の傾向を示した。

4. 過去 1 年間のセックスの相手の数 (表 15)

- ・セックス経験者のうち、過去 1 年間のセックスの相手の数が 2 人以上だったものの割合は、男子 47.5%、女子 48.1% で約半数近くであった。そのうち 10 人以上の相手がいた人の割合は、男子 6.7%、女子 3.0% であった。
- ・18-19 歳のセックス経験者のうち、過去 1 年間のセックスの相手の数が 2 人以上だったものの割合は、男子 39.6%、女子 50.0% と全体の 4-5 割程度で、18-19 歳群では女性の方が複数の相手を持つ人が多かった。
- ・これを、全国性行動調査のセックス経験者の 18-19 歳群の結果と比較すると、全国調査では、過去 1 年間の

セックス経験人数が2人以上だったものは、男子(18-19歳群)52.0%、女子(18-19歳群)55.0%であり、約半数であり、今回の調査結果と同様の傾向を示している。

5. これまでのセックスの相手の種類 (表16)

・セックス経験者のうち、これまでに彼氏彼女以外の不特定の相手がいた人の割合は、男子25.6%、女子28.4%で約3割近い人が不特定の相手との性経験を有していた。

6. セックスの頻度 (表17)

・セックス経験者のうち、過去1年間のセックスの頻度は、男女とも最も多かったのは週2-3回で男子32.4%、女子31.9%であった。

7. セックスの場所 (表18)

・男女別にセックスの場所を比較し、多い順に並べると、男子では、自分の部屋82.4%、彼氏・彼女の部屋74.8%、ラブホテル72.7%、屋外34.9%、トイレ22.3%、車中19.7%であった。一方、女子では、彼氏・彼女の家87.9%、ラブホテル70.7%、自分の部屋55.2%、屋外37.9%、トイレ24.1%、車中22.8%であり、ほとんどはお互いの部屋かラブホテルであった。

8. 避妊法 (表19)

・セックス経験者の避妊法は、最も多かったのはコンドームで男子84.5%、女子84.1%、であったが、次に多かったのは膣外射精で男子42.4%、女子47.8%と全体の4-5割の人が膣外射精という不確実な方法をとっていた。

【コンドームについて】

1. コンドームの所持 (表20)

・セックス経験者のうち、調査時点で

コンドームを所持していた人の割合は29.4%で、男子37.4%、女子21.2%と女子よりも男子の方がコンドームを持っている人の割合が高かった。

2. 一番最近のセックスの時のコンドームの使用率 (表21)

- ・一番最近のセックスの時のコンドームの使用率は、58.5%で、約6割近い人がコンドーム使用していた。
- ・18-19歳群では、男子の60.4%、女子の58.8%が一番最近のセックスの時にコンドームを使用していた。これを全国調査の結果と比較すると、全国調査の18-19歳群男子の使用率は48.0%、女子は45.0%で、また、全国の国立大学生の調査結果と比較すると、国立大学1年生のコンドーム使用率は男子67.3%、女子72.4%であることから、今回の調査対象者の使用率はその中間であった。

3. セックスの相手の数とコンドーム使用率との関係 (表22)

- ・過去1年間のセックスの相手の数と一番最近のセックスの時のコンドーム使用率との関係を調べた。セックスの相手の数が1人の人はコンドーム使用率は65.9%、2人では54.2%、3人44.9%、4人56.3%、5人以上39.6%で、相手の数が多い人ほどコンドーム使用率が低く無防備な性行為を行っていた。
- ・この結果は、全国国立大学生の性行動調査の結果と一致しており、同様の傾向を示していた。

4. コンドームの入手先 (表23)

- ・一番最近セックスの時コンドームを使用したと答えたものに、コンドームの入手法を尋ねた。男女で異なり、男子の場合は最も多かったのが「コンビニ」で35.7%、次が「薬局・薬店」

で33.6%であったが、女子の場合は、最も多かったのが「相手が持っていた」で37.0%、次が薬局・薬店で23.7%であり、コンドームの準備を相手任せにしている女性の傾向が捉えられた。これは国立大学生の調査結果とも一致していた。

5. コンドームを使用した理由 (表 24)

- ・男女ともコンドームを使用した理由で最も多かったものは、「避妊」で男子89.3%、女子94.8%で、「STD予防」は男子18.6%、女子17.8%でと約2割近く、「エイズの予防」は男子12.9%、女子13.3%であった。また、男子では「相手が大事だから」という理由が54.3%と約半数を占めていた。
- ・年齢群別の使用理由を比較すると、男女とも15-17歳群で「性病予防」「エイズ予防」の割合が高かった。

6. コンドームを使用しなかった理由 (表 25-1、表 25-2)

- ・セックスの経験者で一番最近のセックスの時コンドーム使わなかった理由について調べた。理由は男女で異なり、男子では、最も多かったものは、「使うのが面倒だった」という理由で48.0%、次が「気持ちよさが減る」で44.9%であったが、女子では、最も多かったのが、「相手を信用していたから」が35.4%、次は男子と同じく「気持ちよさが減る」が34.4%であった。女子の相手任せの姿勢の一端が伺われた。

7. 女性がコンドーム使用を促すことについて (表 26)

- ・女性の側からコンドーム使用を促すことに対する意識を調べるために、「コンドームをつけて」と女性が言うことについての考えを尋ねた。
- ・コンドーム使用を女性が促すことに

ついて、「当たり前だと思う」が男子79.1%、女子78.7%と最も多く、「安心できると思う」が男子37.9%、女子48.5%、次が「自分を大切にしている感じがする」が男子31.9%、女子44.9%で、女性からコンドーム使用を言い出すことに関して肯定的な回答が大半を占めていた。

8. コンドームとピルに関する意識・態度の質問 (表 27)

- ・「コンドームの使い方を習ったことある」人は約半数の48.7%であった。
- ・「決まった相手とのセックスではコンドームを使わなくてよい」と考えているの人は、14.6%であり、約1-2割の人が“決まった相手なら大丈夫”という意識を持っていた。
- ・「相手が誰であろうとコンドームを使うべきである」と考えているのは、67.1%であったが、実際の使用率は10%程度低いことから、意識と行動が乖離している状況が示唆された。
- ・「コンドームを使うかどうかは自分が決める」人は、男子が43.9%、女子が60.1%で男子に比べ女子の方が多く、前年度実施した大学生調査の結果とは異なっていた。
- ・「コンドームを使わなくても平気である」人が男子で27.2%、女子で18.6%と2-3割も存在した。
- ・「ピルが簡単に手に入るようになったら、コンドームは使いたくない」人は、男子の25.2%、女子の14.0%と、男子の割合が多かった。
- ・女性用コンドームの使用希望者は、男子36.5%、女子31.6%で、同じ女性がコントロールできる避妊法であるが、ピルにくらべ女性用コンドームの方が希望者が多かった。
- ・「ピルが避妊の薬である」と認知して

いた人は、64.8%にとどまった。

- ・「ピルが STD の予防にならない」と知っていた人は 48.7%であり、「ピルはエイズの予防にならない」と知っていた人は 51.3%とどちらも約半数程度であった。

【知識レベル】

STD/HIV 関連知識 (表 28)

- ・「決まった一人の相手とセックスしていたら、STD にはかからない」に同意した人の割合は、20.6%で「決まった相手とセックスをする時にはコンドームは使わなくてよい」に同意したもの 14.6%とほぼ同じ割合であった。
- ・「性病にかかっているとエイズにかかりやすい」の正解率は 22.8%で、一般集団全国調査の 18-19 歳群の正解率が男子 19.6%、女子 20.8%で、ほぼ同じ正解率であった。
- ・「コンドームは STD/エイズの予防になる」と思っている人は 83.7%にとどまっていた。
- ・「フェラチオで口から性器に STD が感染する」の正解率は 27.1%で、一般集団全国調査の 10 代と比較すると、全国調査の 18-19 歳群の男子の正解率は 32.1%で、女子 26.4%とほぼ同じレベルの正解率であった。
- ・「フェラチオで性器から口に STD が感染する」の正解率は 35.9% (男子 39.9%、女 31.9%) で、一般集団全国調査の 10 代と比較すると、全国調査の 18-19 歳群の男子の正解率は 39.3%で、女子 50.9%で女子の知識レベルがやや低かった。
- ・「STD は薬で治るのであまり心配することはない」と考えている人は、6.8%であった。
- ・「STD にかかると必ず症状が出る」の正解率は、42.0%で、一般集団全国調査の 10 代と比較すると、全国調査の 18-19 歳群の男子の正解率は 39.3%で、女子 39.6%とほぼ同じレベルの正解率であった。
- ・「STD を治療しないと不妊になる」の正解率は 53.2%で約半数の人は知っていた。
- ・「STD よりも妊娠が心配である」と考えている人は、約 4 割の 39.4%であった。男女同じ傾向
- ・「妊娠が友達の間で話題になる」人は、男子 61.5%、女子 76.1%と 6-7 割であるが、男女で比較すると、女子の高い。
- ・「STD が友達の間で話題になる」人は、男子 50.5%、女子 46.5%で約半数であり、妊娠の話題に比べると 1-2 割少ない。
- ・「若者は気づかずに STD にかかっている」と思っている人は、男子 61.8%、女子 70.8%と 6-7 割であった。
- ・「STD にかかっても相手には言えない」と思っている人は、男子 21.6%、女子 15.6%であった。
- ・「新薬ができたので、エイズ発症を送らせることができる」の正解率は 32.6%で、一般集団全国調査の 10 代と比較すると、全国調査の 18-19 歳群の男子の正解率は 32.1%で、女子 50.9%で全国調査の女子の正解率の方が高かった。
- ・「普通のエイズ検査では、感染してから数日後では感染してるかどうかはわからない」の正解率は 23.6%で、一般集団全国調査の 10 代と比較すると、全国調査の 18-19 歳群の男子の正解率は 25.0%で、女子 30.2%とほぼ同じレベルの正解率であった。

- ・「保健所のエイズの無料匿名検査ができる」と知っている人は38.7%と4割を切っていた。一般集団全国調査の10代と比較すると、全国調査の18-19歳群の男子の正解率は32.1%で、女子54.7%と全国調査の女子の正解率が高率であった。

【予防介入(教育)】

1. エイズ/STD について、今後どこから(誰から)情報を得たいか (表 29-1、表 29-2)

- ・男子では一番は「テレビのニュース」が33.9%、「医師・看護婦などの専門家」が23.6%、2番目が「男友達」22.3%、「中学や高校の保体の先生」と「雑誌・週刊誌」が21.3%の順であった。
- ・女子では、一番は「雑誌・週刊誌」が31.2%、2番は「中学高校の保健体育の先生」が28.2%、「医師・看護婦などの専門家」が27.2%、「女友達」が26.9%で、「テレビのニュース」が26.2%であった。

2. STD/HIV 関連のチラシ・フライヤーの置き場所(希望の多かったもの) (表 30-1、表

30-2)

- ・STD/HIV 関連の情報を記載したチラシ・フライヤーの置き場所として希望の多かったものは、「コンドームの箱」59.0%、「ラブホテル」48.7%、「学校の保健室」43.5%、「薬局・薬店」36.0%、「コンビニ」23.8%であった。これらの場所を利用した予防介入方法を考える必要があると思われる。

3. セックス/エイズ/STD 予防の教え方についての意見

- ・希望が6割を超えていた項目をあげると、「危ないことは危ないと教えて欲しい」88.9%、「教える場合は恥ずかしながら堂々と教えて欲しい」87.2%、「身近な例を出して話してもらおうと聞きやすい」78.1%、「困ったときの連絡先などすぐに役立つ情報を教えて欲しい」77.1%、「ふざけ半分ない方はして欲しくない」74.4%、「専門家の話は信頼できる」68.6%、「中高生はセックスをしてないという話し方はしらける」62.6%であった。

結果のまとめ

本調査の対象者(首都圏の10代女性と、彼女達とカップルを構成する男性)に関して以下の知見が得られた。

1. 日常生活の特徴

最もポピュラーな遊び場所(よく行くところ)は、「カラオケ」「ファーストフード店」「コンビニ」であり、特に「カラオケ」は遊びの場でもあり、夜を過ごす場ともなっていた。また、飲酒経験は、15-17歳の高校生群でも男女とも約8割であった。

2. 性行動の特徴

性交経験率は、本対象者の約8割と高率であった。セックス経験者のうち、これまでのセックスの相手の数は男女とも約6割が

2人以上で、1割は既に10人以上の相手を持っていた。また、セックスの相手としては、男女とも約3割が決まった相手以外の不特定の相手を持っており、全体と通した特徴としては、男女差がほとんど見られないことである。また、セックスの場所としては、お互いの部屋以外では「ラブホテル」の利用者が最も多かった。

3. コンドーム使用の特徴

一番最近のセックス時のコンドーム使用率は約6割であったが、相手の数が多い人程コンドーム使用率が低かった。女性がコンドーム使用を促すことについては男女とも肯定的であるが、実際のコンドーム使用に関しては女性の側に相手に依存した態度が

見られた。

4. 予防に対する意識

「若者は気づかずに性感染症にかかっている」と約6-7割の人が思っているが、実際のセックスに際しては、「性感染症よりも妊娠の方が心配である」人が約4割であった。また、「決まった一人の相手とセックスをしていたら性感染症にはかからない」（一人神話）と思っている人が約2割で、「セックスの時コンドームを使わなくても平気である」と答えた人が約2-3割存在した。

5. 予防介入(教育)について

STD/HIV 関連のチラシの配置場所としては、「コンドームの箱の中」「ラブホテル」「学校の保健室」「コンビニ」などがあげられた。これらの情報の提供の仕方（教え方については）STD/HIV に関する一般的な知識を提供

するのではなく、対象者が STD/HIV 感染を自分達のリスクとしてとらえることができるような情報が望まれており、その際には提供する側の姿勢（態度）も重要であることが示唆された。

最後に

本年度の結果より、首都圏の繁華街に遊ぶ10代女性とそのパートナーの行動・意識の実態の一部が明らかとなった。対象者の約半数は高校生であったが、かなり活発で無防備な性行動をとっていた。現時点では予防意識は低い、予防に関する具体的な情報を必要としており、今後は彼らの利用度の高い「カラオケ」「ラブホテル」「コンビニ」および「学校の保健室」などをベースとした予防介入研究を展開していく予定である。

発表業績

著書

1. 木原雅子,木原正博. 大学生の性行動—全国国立大学生セクシャルヘルススタディから. 三煌社,東京, 2001(印刷中)
2. 木原雅子. STD と性行動。性感染症/HIV 感染 (熊本悦明他編). メジカルビュー社, 東京,2001年 (印刷中)
3. 木原正博,木原雅子,内野英幸,石塚智一,尾崎米厚,島崎継雄,杉森伸吉,土田昭司,中畝菜穂子,簗輪眞澄,山本太郎. 日本人の HIV/STD 関連知識,性行動,性意識についての全国調査. 教育アンケート調査年鑑下 2000,創育社,東京,2000

総説

1. 木原雅子,市川誠一,山本太郎,木原正博. 日本人の性行動の現状と予防対策の戦略—性的ネットワークと行動理論,治療学 特集「HIV 感染症」35, p85-88, 2001
2. 木原雅子,木原正博. ピル解禁と HIV/STD の今後. 泌尿器外科 13:375-379, 2000
3. 木原雅子. 日本の若者の性行動と Sexual Health. 性と健康. P26-p29, 2000年11月
4. 木原正博,木原雅子. 日本人の性行動の現状と動向,日本医事新報 特集「性感染症学」2001 (印刷中)
5. 木原正博,木原雅子. これからの HIV/STD 予防対策—最近の HIV 感染動向を踏まえて, 生活教育 45:7-12, 2000

論文

1. Masako Ono Kihara, Jane Kramer, Deborah Bain, Masahiro Kihara, Jeff Mandel.

- Knowledge of and attitudes towards contraceptive pill use in Japan-Results of a national survey. Family Planning Perspectives 2001 (in press)
2. Masako Ono-Kihara, Masahiro Kihara. First nationwide sexual behavior survey in Japan-results of HIV&Sex in Japan 1999". J. Asian Sexology 2, 2001 (in press)
 3. M.Ono-Kihara, M.Kihara, Uchino H, Sugimori S, Yamamoto T, Minowa M, Ishizuka T, Nakaune N, Ozaki Y, Shimazaki, Tsuchida S. Knowledge of and attitude toward contraceptive pill use in Japan- results of "HIV&Sex in Japan Survey 1999" , X III INTERNATIONAL AIDS CONFERENCE Social Science: Rights, Politics, Commitment and Action, 169-174, 2000
 4. 木原正博,岩木エリーザ,木原雅子,市川誠一,大屋日登美 : 滞日ブラジル人に対する効果的予防啓発法開発のための準備実験的介入研究 (The Latin Project) -Part I : 研究デザインとベースライン調査の結果-,日本エイズ学会誌, 2 : 1-12,2000

学会シンポジウム

1. Ono-Kihara M. The first nationwide sexual behavioral survey in Japan. The 6th Asian Congress of Sexiology (Symposium: Sexual Behavior in the Era of AIDS), Kobe, Japan, 2000
2. Uchino.H,Ono-Kihara.M,Ishizuka.T,Minowa.M,Shimazaki.T,Sugimori.S,Tsuchida.S,Yamamoto.T, Kihara.M. HIV&SEX in JAPAN Survey-Part1 : Current Condom Use During Vaginal Intercourse and its Implications for HIV Prevention in Japan. 13th International AIDZ Conference,Durban,2000
3. 木原雅子. 若者の性行動と HIV/STD リスクーピル解禁を迎えて. 第 11 回日本臨床微生物学会総会 (公開シンポジウム : 見直そうエイズー21 世紀へのメッセージ), 横浜,2000
4. 木原雅子. 日本人の性行動と HIV/STD 感染リスク : 全国性行動調査の結果より. 第 14 回日本エイズ学会学術集会・総会 (シンポジウム「21 世紀の日本とエイズ」), 京都,2000
5. 木原雅子. 若い女性の性行動と性感染のリスク. 日本性感染症学会第 13 回学術大会 (市民公開講座「若年女性と性感染症」), 名古屋,2000
6. 木原雅子. わが国の HIV 検査行動の現状について : 全国性行動調査の結果より, 第 14 回日本エイズ学会総会 (ワークショップ 13「HIV 検査の普及」), 京都,2000.11.30
7. 日高庸晴. エイズ問題の解決に向けた学際的アプローチ, 第 48 回日本グループダイナミックス学会, 2000.10.1, 東洋大学, 東京

学会発表

1. Ono-Kihara.M.,Uchino.,Ishizuka.T,Minowa.M,Nakaune.N,Ozaki.Y,Shimazaki.T,Sugimori.S,Tsuchida.S,Yamamoto.T,Kihara.M. HIV & sex in Japan Survey -part2 : Knowledge of and attitudes toward contraceptive pill use in Japan.13th International AIDZ Conference,Durban,2000
2. Kihara.M,Ono-Kihara.M,Uchino.H,Ishizuka.T,Minowa.M,Nakaune.N,Ozaki.Y,ima

- zaki.T,Sugimori.S,Tsuchida.S,Yamamoto.T. HIV&SEX in JAPAN Survey-Part3 : Paid sex in Japan. 13th International AIDZ Conference,Durban,2000
3. 木原雅子,木原正博,市川誠一,大屋日登美,落合賀津子,木村博和,山本太郎,内野英幸,片峰茂: 全国国立大学生 Sexual Health Study-Part2-STD/HIV 予防意識・STD 罹患状況の実態について,第 14 回日本エイズ学会総会,京都,2000.11.28
 4. 内野英幸,木原雅子,木原正博,市川誠一,大屋日登美,落合賀津子,木村博和,山本太郎: 全国国立大学生 Sexual Health Study-Part1-性行動・HIV/STD 関連知識の実態について,第 14 回日本エイズ学会総会,京都,2000.11.28
 5. 木原雅子,木原正博,内野英幸,山本太郎,箕輪眞澄,尾崎米厚,片峰茂: 日本人の HIV/STD 関連知識,性行動,性意識に関する全国調査-part 1 : 日本人全体から見た若者の性行動の特徴について, 第 14 回日本エイズ学会総会,京都,2000.11.28
 6. 木原正博,木原雅子,内野英幸,山本太郎,箕輪眞澄,尾崎米厚: 日本人の HIV/STD 関連知識,性行動,性意識に関する全国調査-part 2 : 日本人の売買春行動について, 第 14 回日本エイズ学会総会,京都,2000.11.28
 7. 内野英幸,木原雅子,木原正博. HIV&SEX in JAPAN Survey-Part1 : 日本人のコンドーム使用状況とその背景,第 14 回日本エイズ学会総会,京都,2000.11.28
 8. 山本太郎,木原雅子,木原正博,内野英幸,箕輪眞澄,尾崎米厚. 日本人の HIV/STD 関連知識,性行動,性意識に関する全国調査-part3 : 日本人の経口避妊薬 (ピル) に関する知識・意識について. 第 14 回日本エイズ学会学術集会・総会,京都,2000
 9. 内野英幸,木原雅子,木原正博,市川誠一,大屋日登美,落合加津子,木村博和,山本太郎. 全国国立大学生 Sexual Health Study-Part1-,性行動・HIV/STD 関連知識の実態について. 第 14 回日本エイズ学会学術集会・総会,京都,2000
 10. 根本透, 岳中美江, 日高庸晴, 鬼塚直樹, 橋本充代 (2000) 米国在住 HIV 陽性者の HIV 感染リスク行動と心理・社会的背景に関する研究, 第 14 回日本エイズ学会学術集会, 京都
 11. Tooru Nemoto, Mie Takenaka, Don Operario, Yasuharu Hidaka (2000) HIV risk behaviors among Asian massage parlor workers in San Francisco. 13th International Conference on AIDS, Durban.

【参加者の背景】

表1. 対象者の性・年齢別分布

		12-15歳	15-17歳	18-19歳	20歳以上	不明
全体	602人	35	261	248	57	1
	100%	5.8	43.4	41.2	9.5	0.2
男性	301人	9	129	105	57	1
	100%	3.0	42.9	34.9	18.9	0.3
女性	301人	26	132	143	0	0
	100%	8.6	43.9	47.5	0	0

表2. 対象者の学年・職業別分布

		学年・職業													
		中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	予備校生	短大生	大学生	専門学校	会社員/自営	フリーター	その他	無回答
全体	602	5	26	33	102	107	83	10	18	99	50	17	45	6	1
	100	0.8	4.3	5.5	16.9	17.8	13.8	1.7	3	16.4	8.3	2.8	7.5	1	0.2
男性	301	1	8	12	46	60	43	5	2	54	22	13	28	6	1
	100	0.3	2.7	4.0	15.3	19.9	14.3	1.7	0.7	17.9	7.3	4.3	9.3	2.0	0.3
女性	301	4	18	21	56	47	40	5	16	45	28	4	17	0	0
	100	1.3	6	7	18.6	15.6	13.3	1.7	5.3	15	9.3	1.3	5.6	0	0

表3. 対象者の居住地

		居住地					無回答
		東京都内	千葉県	埼玉県	神奈川県	その他	
全体	602人	361	35	61	110	34	1
	100%	60.0	5.8	10.1	18.3	5.6	0.2
男性	301人	194	13	28	51	14	1
	100%	64.5	4.3	9.3	16.9	4.7	0.3
女性	301人	167	22	33	59	20	0
	100%	55.5	7.3	11.0	19.6	6.6	0

表4. 同居家族

		父親	母親	兄弟	姉妹	祖父母	親と離れて一人暮らし			その他	無回答	
							兄弟姉妹と同居	兄弟姉妹と同居	兄弟姉妹と同居			
全体	602人	444	497	259	239	103	5	55	3	14	19	2
	100%	73.8	82.6	43	39.7	17.1	0.8	9.1	0.5	2.3	3.2	0.3
男性	301人	214	238	124	113	51	3	38	1	7	6	1
	100%	71.1	79.1	41.2	37.5	16.9	1	12.6	0.3	2.3	2	0.3
女性	301人	230	259	135	126	52	2	17	2	7	13	1
	100%	76.4	86	44.9	41.9	17.3	0.7	5.6	0.7	2.3	4.3	0.3